

# 滋賀県甲賀市信楽町江田水害履歴マップ② 1953(昭和28)年8月14~15日(多羅尾豪雨)

■被害状況 ■復旧・復興活動 ■Aさんの被災体験談 ■Dさんの被災体験談

2021(令和3)年12月1日に江田福祉会館、2022(令和4)年6月9日にDさん宅での聞き取り調査に基づき作成

0m 100m 200m

作成 関西大学 景観研究室(甲賀市信楽町都市計画地図上に加筆)  
信楽町江田地区外の被害状況は、本マップには含まないものとする。

## 全体被害

被害状況：江田地区全体

- 大戸川の決壊、中手川・信楽川の溢水により広範囲で浸水被害が発生した。
- 滋賀県防災情報マップ最大浸水深図(1/200年確率)で浸水深2.0~3.0m以上の範囲は、ほとんど浸水した。
- 本町付近で、目視で見渡せる範囲は全て浸水しているように見えた。
- 堤内に溢れた水は、2、3日で引いた。
- 大戸川の氾濫水は土砂を多く含んでいたため、その水が氾濫した範囲には土砂が多く堆積した。
- 地区内で死者はなかった。

## 実体験

本町在住 Aさんの被災体験(地図上1~5)

- 14日午後11頃、自宅付近の標高が低い部分が浸水し始めたのを確認した。
- 浸水の報告のため、長野の警察署まで自転車で向かった。通報を受けた警官が警察署前の信楽川を確認したところ、水位が沿岸道路の高さに迫っていた。
- 信楽川がいつ溢れてもおかしくない中、命からがら帰宅した。
- 自宅も床下浸水し、玄関に水が入ってきて履物が浮いた。1階が浸水し始めた時点で、家族6人は自宅2階へ避難した。最終的には、床の間の柱の上まで床上浸水したが、2階の屋根の上から向かいの家にロープで渡って逃げることを検討するほどの恐怖感であった。
- 江田区公民館(現 江田老人憩の家)へ20日間避難した。

## Aさん宅の宅地の嵩上げ

昭和28年に被災して以降も、自宅横の用水路が2、3回溢水したため、昭和44年に1m嵩上げた。

## 復興

信楽町土地改良区による農地の復旧事業

- 昭和30~33年に、特に土砂堆積被害の大きかった範囲(大戸川・中手川・国道422号に囲まれた範囲)に対して実施され、農業用水の取水口を変更した。
- 牛を使って復旧作業を行ったが、牛の膝の高さまで泥に埋まるなど、苦労した。
- 工事が完了し、水害後最初に作付けを行えたのは、昭和34年であった。

## 丸の内周辺の浸水被害

Eさん宅あたりまで浸水

## 田んぼの浸水被害

大戸川の氾濫水が中手川を越えて北側に到達。中手川の堤防も一部水没した(正確な範囲は不明)。

## 復旧工事・圃場整備

甚大な浸水および土砂堆積の被害に遭った田んぼを中心に圃場整備を計画、実施した。

## 被害状況：交差点(Dさんの証言)

浸水深は、2~3m程度であったと思われる。

## 被害状況

大戸川の増水により排水不良

## 復旧工事

水害後、長野の用水の頭首工を建設。

## 土砂の堆積被害

この付近は0.7~0.8m程度

## 土砂の堆積被害

この付近は1.0m程度

## 被害状況：大戸川(Dさんの証言)

- 流木が大戸川橋(現・良い子の橋)に引っかかり、川が堰き止められたことにより、すぐ上流の左岸が決壊した。
- 決壊箇所付近の左岸側の田んぼを流れて氾濫水が堤内に流入した。

## 復旧・復興活動：大戸川堤防整備

水害後、圃場整備事業と同時に河道を付け替えた。また、左岸堤防を嵩上げし、右岸側と同じ高さになった。

## 土砂の堆積被害

この付近は0.03~0.05m程度

## 復旧・復興活動：Hさん宅

水害被災により本町に移転した。

## 中手川左岸の溢水

堤防が低い箇所から溢水した。(流出土砂は少なかった。)

## 中手川右岸の溢水

堤防が低い箇所から溢水した。

## 昭和28年の避難所設置状況

昭和28年当時、江田には現在のように定められた「避難所」はなく、公民館(現・老人憩の家)への事前避難もしていなかった。

## 実体験

Dさんの被災体験(地図上に1~7で記載)

### 水害当日

- 8月15日は初盆で、先祖供養の行事に出かけていた。帰宅した夜中の12時頃、雨が激しく降っていた。母屋の2階で寝ていた午前2時頃、1階の土間が浸水して、なお水嵩が増していくことに気がついた。外は雨が降っていた。Dさんとお姉さんの二人で畳を上げ、70cmほどの勉強机の上に6枚載せたり、家のつしに荷物を上げたりした。水位はあっという間に上がり、午前3時頃には母屋の軒下、蔵の入り口の庇まで浸水した。その頃には雨はやんでいた。
- 大戸川の上流から土砂や流木が次々に流れて来た。大戸川橋(現・良い子の橋)に5~6mの木が3~4本引っかかり、立ち上がっていくのを見た。これらの流木が川の流れを堰き止めたために、そのすぐ上流の左岸側が決壊した。
- 孤立してしまったため、母屋から5~7m離れた山側の小屋へ移動しようと葉桶に母親を乗せて自分は泳ぎ、小屋の2階に避難した。
- 中手川橋の上にいる地区の人たちに助けを求めたものの、水位がどんどん上がっていったため、誰も助けに来られなかった。
- 朝の8時~9時半頃、親戚の人が山伝いに救助に来てくれた(ルートは地図参照)が、水も使えない状況で何もできなかった。
- 大戸川橋を堰き止めていた流木が流されて川の水位が下がり、氾濫水の水位も下がっていき、午前10時頃には水没していた中手川の堤防が見えてきた。
- 水が引いていく勢いが強かったため、母屋がミシミシと音を立ててねじれ傾いていった。障子が閉まらなくなってしまった。小屋で牛とニワトリを飼っていたが、ニワトリは全滅してしまった。

### 復旧活動

- 母屋が傾いてしまったため、発災から1年間、小屋の2階の8畳ほどの部屋に家族で暮らした。
- 大戸川から流れてきた泥が、家の床下に0.3m程度堆積した。スコップですくおうとしたが水を多く含んで重く、運べなかったため、7~10日間放置してある程度乾いてから取り除いた。リヤカーで捨てに行ったが、捨て場所にも困った。

Dさん宅の母屋(当時)



この高さまで浸水

大戸川決壊箇所付近

国道422号線

浸水した左岸側の田圃

決壊箇所